

会 議 記 録

次の審議会（協議会）を下記のとおり開催したので報告します。

審議会等名称	第2回近江八幡市オープンガバナンス推進協議会		
開催日時	令和3年1月15日（金） 14時00分～16時00分		
開催場所	近江八幡市役所4階 第3・4委員会室		
出席者	<p>出席者（敬称略）</p> <p>委員 奥村 裕一（Web参加）、大嶋 英寿、佐藤 典司、重野 弘樹 杉浦 裕樹（Web参加）、田口 真太郎、谷口 晟士、堤 昭憲 中嶋 俊明、原田 智弘、松岡 静司、的場 保典、矢倉 敬一 （欠席）中出 正幸、山田 恵美</p>		
次回開催予定日	未定		
問い合わせ先	所属名、担当者名 総合政策部企画課 村田 電話番号 0748-36-5527 メールアドレス 010202@city.omihachiman.lg.jp		
会議記録	発言記録・ 要約	要約 した 理由	内容を整理して、わかりやすく記録として残すため
内容	別紙のとおり		

担当課⇒総務課

事務局

1. 開会

2. 話題提供

「オープンガバナンスとデザイン思考」 資料1

立命館大学経営学部 佐藤典司教授

会長

話題提供に対して質問や意見など

A委員

- デザイン思考を体現している企業はどんな企業か？

佐藤教授

- 市内では「たねや」があてはまると思う。

事務局

- 行政は、初めに形を決めてから事業実行となるので、ある程度行政主体で形を作ってから市民の皆さんの意見を参考にして修正する。アート思考からデザイン思考に移ることはあり得るか。

佐藤教授

- アートとデザインの違いは、アートは作品そのもの、デザインは手段。まともでないものを目に見える形にする事がデザインであり、その手法をプロジェクトでうまく使うといい。

B委員

- 行政と市民が自分たちのまちことを一緒に考えることに正解不正解はない。試行錯誤を重ねながらやってみるのは大事と思う。

C委員

- 市民はデザイン思考について知らない。説明してもらえれば理解できるので、市民が参加することが大事であると思うが、促すにはどうすればいいのか。

佐藤教授

- わかりやすく説明することが第一と思う。

3. 議事（近江八幡市版オープンガバナンスの基本的な考え方） 資料2

《事務局説明》

奥村会長

事務局からの説明に対して質問や意見など

D委員

- 試行錯誤しながらやることは賛成。5の構築について、まず初めは行政主導で課題提供するが、フェーズ2の市民からも課題提供し対等に議論する段階に進むにはハードルが高いように感じる。どのように実行していくかが大切であると思う。

E委員

- 行政と市民が求めていることは必ずしも一致していないので、市民の意見をくみ取り課題提供していただきたい。

A委員

- オープンガバナンスの進め方は理解できた。フェーズ2の対等な議論の場の段階に進むには体制整備が必要と思う。

F委員

- より多くの市民や各種団体が課題を共有し、解決に向けての市民の参画が見えるようにすることが大事と感じた。

G委員

- 背景・目的・形ふくめてオープンガバナンスの基本的な考え方については、その方向でいいと思う。

- 課題解決に向けた議論にどれだけの市民が参画してもらえるかがポイントになる。多くの方に参画してもらえるような促しが大事であると思う。
- H委員 ● 自分事として市民が主体的に参加することがポイントになる。
- 時間をかければ参加者が増えるということではない。特に若者は地域や社会から離れている傾向があるので、オープンガバナンスの取り組みに関心をもってもらえるよう促す方がよい。
- I委員 ● まちのことにどれだけの市民が関心を示すかを考えると、行政の既存のサービス（フェースブックなど）でうまくいくか分からないが、デザイン思考で実践してみる価値はあると思う。何かテーマを決めて、施策の作り方をオープンにして、出来ることから実施するといふ。
- J委員 ● 人口減少や高齢化により地域のコミュニティの維持は深刻になっている。ボランティアだけでの維持は難しくなるため、中小企業の参画などビジネス的な発想も今後必要になると思う。
- K委員 ● ⑤の構築について…フェーズ1・2・3と一歩ずつ進めていくが、2025年にフェーズ3への到達を目指すのは、目標が高いのではないかと感じる。進め方等のアドバイスをお伺いしたい。
- C委員 ● 自治会としては自治会長がいかに情報を集めるかが大事であるが、任期が一年という課題がある。何年か続けると、地域を細かく知ることができ、解決に繋がることもある。
- 現在は団塊世代が活発に活動しているが、少子高齢化が進む中、学生（中学生・高校生・大学生）の参加を増やすことが必要と思う。
- L委員 ● まちづくり協議会では3年毎に計画を作り直し、意見を聞きながら運営しているが、なかなか積極的な意見が出てこないのが現状である。市民から意見を聞くことは、基盤を作りあげるうえで大事であり、今後、担い手が少なくなる中で、新しい仕組みができて意見を出してもらうことでいろんな取り組みができると思う。
- B委員 ● ICTをうまく使い、いろいろな人が参加し関係を作っていくことがポイントになると思う。
- M委員 ● 現状、市民参加がうまくいっていない中でどのように進めていくかであるが、実験的に、やってみて振り返り、修正しながら進むことが大事である。
- 高校生をはじめとした若者などさまざまな人の意見を聴く場を作ることは、社会を変えていく可能性がある。子どもたちが近江八幡を好きになれば、定住に繋がり、まちは発展する。意見を発することで地域や社会のプラスになるのがオープンガバナンスのメリットである。
- 事務局 ● 委員の皆様からの意見は、事務局でまとめて方針案として示させていただく。
- 委員の意見に対する回答
 - ・市民が求めている内容と行政の考えていることに乖離がある。
 - ➡初めは行政側からの課題提供を行うが、次の段階では市民や団体からの課題提供ができることを目指している。オープンガバナンスの目的は市民の意見を政策決定に反映すること、市民、行政が協力して課題解決にあたることである。オープンガバナンスにより市民と行政の乖離を埋められると

	<p>考えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ どれだけの市民が参加するかの課題について <p>➡市民の身近な課題について試行的にするなど考えている。協議会の場でどのような手法を用いれば参加者が集められるか議論していきたい。</p>
M委員	<ul style="list-style-type: none"> ● 課題に限らず、市民が意見を出しやすいテーマから実施していくことが重要。市民がデジタルの場で意見を始めるきっかけ作りが大事だと思っており、その辺の工夫ができればと思う。
事務局	<p>3. 議事（デジタルプラットフォーム） 資料3</p> <p>《事務局説明》</p>
会長	事務局からの説明に対して質問や意見など
M委員	<ul style="list-style-type: none"> ● 令和3年3月に方向性を決定し、その枠の中で柔軟に実行していく。
A委員	<ul style="list-style-type: none"> ● SNS で試行してから、新しいシステムを構築することに賛成。 ● LINE は受身型アプリであるため、投稿型のツイッターが運用しやすい。
M委員	<ul style="list-style-type: none"> ● SNS の機能に違いがある。多くの市民が使っているものを使う方がよい。 ● SNS を活用して実験的にいき、市民がどこまで参加できるか見ることができる。オープンガバナンスに市民が慣れてきてから、システム導入を検討する方がよい。
I委員	<ul style="list-style-type: none"> ● 新しいシステムを導入しても、行政も市民も慣れていない状況では、うまく議論ができないこともあるので、既存のツール（SNS）を活用してどのようなコミュニケーションができるのか試してみる。Zoomを使ってオンラインでディスカッションして、デジタルホワイトボードを使って意見を集約したり、ラインを使ってアンケートを集約して施策に反映したりなど、既存のツールでもできることは多いので、試行的に実践しながら、新しいシステムが必要かどうかを検討する進め方もいい。 ● トライアルアンドエラーをしながら、そのプロセスを大事にして、うまくいかなかった原因を検証しながら進めていけばいい。
E委員	<ul style="list-style-type: none"> ● SNS は窓口として使うのか、SNS 自体で議論をしたいのかどちらか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ● SNS の機能を利用して議論をしていくイメージである。
E委員	<ul style="list-style-type: none"> ● ライブ配信などをして意見をまとめていくイメージか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ● どのような使い方ができるのかを含めて試行的に運用し、協議会で議論したい。例えば、会議の議論をアーカイブ化しものや、議論のレポートなどを配信し、その内容について市民が意見を発する。その意見を集約して次の会議に反映する事も可能と考える。
E委員	<ul style="list-style-type: none"> ● ツイッターは文字制限がある中でどのようにして課題を投げかけるのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ● どの SNS を使用するのかは、今後、議論させていただきたい。また、機能についても皆さんと協議していきたい。
M委員	<ul style="list-style-type: none"> ● 委員の皆さんがユーザの立場として SNS を使ってみるのもいい。

既存のシステムを活用して実証実験することに同意

終了